

日・ソ交流への期待

松 井 繁

間もなくあわただしかった平成元年も終わろうとしている。6月下旬から7月にかけて会員の藤巻裕蔵氏が、ソ連科学アカデミー・北方生物問題研究所の招待でコンドラチェフ博士の許へ繁殖期のコハクチョウの調査に行く筈であったが、直前に先方の都合で中止になった。来年はコンドラチェフ博士が来日され、相互交流の予定であっただけにまことに残念である。けれども来日を目指して交渉中であり、期待している。

10月27日から11月3日まで、ハバロスク経由でサハリン(樺太)へ行って来た。小生の行く直前に北海道へ南下する第一陣が渡去し、第二群が11月2、3日に現れるだろうという渡りのはざまに、只一羽の白鳥(種不明)をトナイチャ湖(富内湖)で見ただけに終わった。けれども南サハリン狩猟経営局のマルウギン局長、ドリコフ研究員に渡りのことについて聴き、更に研究員とは白鳥湖へ同行調査に行ってきた。

白鳥の研究に関しての交流については藤巻氏がソ連の文献の翻訳を会誌に投稿されている。けれども我が会からは微々たるものと云わざるを得ないのが現状であった。来年は藤巻氏が訪ソできると確信しているし、また会員とサハリンに渡るツアーを考えており、研究者の南サハリンからの来日、講演も希望を持てる状態となってきた。来年こそは、と考えている今日この頃である。

この5月24日に前会長・家田三郎氏が胃がんのため亡くなられた。故人、ご家族のご意志もあって、新潟在住の会員にも通知がなかった。小生も総会の通知のご返事で知った次第である。生前の会へのご尽力、ご苦勞に対して深謝し、ご冥福をお祈りするものである。

なお、次号は追悼のための特集を予定している。

終わりに来年度も会員の皆様のご活躍を切に祈念するものである。